

新潟日報 2024年(令和6年)5月17日

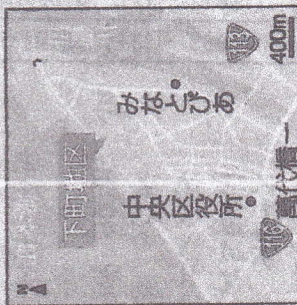
「しも」の学びや歴史たどる

中央区下町地区 住民有志が冊子

冊子は「新潟市『しも』」の中に「しも」と表現する
 の市立小中高校閉校記念 ことごとたわった。
 誌と題し、閉校した小学 下町地区にあつた旧新
 校6校、中学校2校、高校 潟市立工業高の石碑の保
 1校の沿革や校歌、往事の 存活動に取り組んだのをき
 写真などを掲載。また、寺 っかけに、「石碑を残すだ
 町区域、入舟区域などの けではなく、歴史も伝えた
 区域と、今も残る石碑 い」と冊子作成の取り組
 を紹介している。 みが始まった。有志らが半
 冊子では、「下町」を 年ほどかけ地域を歩いて
 かつての人々を呼んでいた 石碑を探し、由来などを調



下町の小中高校の歴史や各所の石碑などを紹介する冊子



くのは初めてで、「良い機会をいただけてうれしい」とほほえむ。

個展ではアクリル絵の具をたっぷり塗った、木製の構構けが目を引く。いたずらっぽく舌を出した猫、赤や黄色の花などで、手作り

べた。

中心になって取り組んだ
 同高出身の加藤功さん(行
 北西区)は「小中高と育つた
 地元のことだったが、調べて
 みるると発見が多かったと
 振り返る。

會津八一をはじめとする
 歌碑・句碑が多いほか、漁
 業で財をなした人物の顕彰
 碑など港に關係する石碑も
 目立ったという。

中には風化により刻まれた
 文字が判読しにくい石碑も
 あり、メンバーは「記録を
 残さなければ何の石碑か分
 からなくなってしまうこと
 改めて危機感を抱いた。

加藤さんによると、下町
 地区には1950年代のピーク
 時、1万人超の小学生がいた
 という。「新潟大火や新潟地
 震などで人々が西区などへ
 引越して、徐々に人口が減
 っていったように思う。寂
 しいが、当時を知る人は冊
 子を見て思い出してほしい」と
 話す。

A4判、38ページ、400部
 印刷し、市内の図書館など
 に配布した。冊子希望者
 にも対応する。連絡先は
 加藤さん 090(470)3910。

動物、
 ている。動物や花を描いた
 作品が中心で、そで山さん
 は「見た人に、明るい気持
 ちになってほしい」と話し
 「ふるまうと作品を鑑賞できること
 がうれしい」と話すので山がほろそ
 ん 新潟市中央区新島町通3

市面担当 (おひらき内)
 (25(228)3610
 FAX (222)6915
 n-shiseifemigata-nippo.co.jp

方面担当 (デザインアップ内)
 025(385)7242
 FAX (385)7245
 shozhen@niigata-nippo.co.jp

最高 21 最低 13
 最高 22 最低 14
 最高 21 最低 14

最高 21 最低 13
 最高 22 最低 14
 最高 21 最低 14

最高 21 最低 13
 最高 22 最低 14
 最高 21 最低 14